

お知らせ

矢野忠前学長が「瑞宝中綬章」を受章されました



矢野忠前学長 (名誉学長)

令和5年春の叙勲受章者が、4月29日付で発表され、矢野忠前学長 (名誉学長) が「瑞宝中綬章」を受章されました。矢野前学長は、永年に亘り教育・研究・臨床を含めた鍼灸医学の確立に携わり、大学の発展に尽力されました。

また、去る7月23日、ホテルグランヴィア京都において、矢野忠先生 瑞宝中綬章受章祝賀会を開催し、学院関係者の他、多数のご来賓の方々にご参加をいただきました。

谷口理事長によるご挨拶で開式し、元衆議院議長 伊吹文明様、京都府副知事 山下晃正様、衆議院議員 田中英之様、南丹市長 西村良平様より心温まるご祝辞を賜りました。勝見学長による乾杯のご発声にて祝宴が始まり、和やかな雰囲気の中で盛大に執り行われました。



学生表彰授与式を行いました

令和5年3月17日に南丹市園部町にて発生した単独事故の際、二次被害の恐れのある中、勇気を持って対応した3名の学生に対して、6月15日 (木) 勝見学長より表彰状が授与されました。

勝見学長は3名の学生に対し、大学での学びを生かし、的確な救助活動を行った行動は、大学の誉であると3名を称え、拍手と共に感謝の言葉を贈られました。



鍼灸学科学科 2年
鬼束 拓弥 男子サッカー部

柔道整復学科 2年
坂本 愛恵 男子サッカー部

救急救命学科 2年
堀川 尚紀 男子サッカー部



本学救助訓練棟で京都府警察による救助訓練が行われました

7月4日 (火) 本学の救助訓練施設において、京都府警察機動隊によるロープ救助訓練が実施され、救急救命学科の学生がその様子を見学しました。

ヘリコプターも使用した救助訓練が行われ、迫力ある訓練の様子に学生は真剣に見入っていました。

令和5年度女子スポーツ学生寮避難訓練を実施

7月1日(土)女子スポーツ学生寮の避難訓練を実施しました。

訓練は救急救命学科教員の指導の下で行われ、訓練の講評では、学生寮における火災の特長と避難における考え方、自身の備え、命を守るために取るべき行動を教授いただき、寮生は実際に火災、地震が起こった場合に備え、真剣に取り組みました。



看護学部[看護学科] * 保健医療学部[救急救命学科・柔道整復学科] * 鍼灸学部[鍼灸学科]
大学院[鍼灸学研究所・保健医療学研究所]

〒629-0392 京都府南丹市日吉町 TEL 0771-72-1181 FAX 0771-72-1189 E-mail gakusei-shien@mst.meiji-u.ac.jp



財団法人日本高等
教育評価機構より
大学評価基準を
満たしていると認定
されました。

明治国際医療大学だより

Meiji University of Integrative Medicine News Letter Vol.25



ご挨拶

新型コロナウイルス感染症は5月8日より2類相当から、5類感染症になりました。行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し、国民の自主的な取り組みをベースとした対応に変わったということです。これに伴い、本学においても行動制限は自主的な判断に委ねることにしました。しかしながら、医療系の大学としては、基本的な感染対策は守らなければならないことです。

近代看護教育の生みの親とも呼ばれるイギリスの看護師フローレンス・ナイチンゲールは、19世紀のクリミア戦争に従軍し、「ランプの貴婦人」と呼ばれました。野戦病院で骨身を削って看護を続け、病院内の衛生状態を改善しました。イギリスへの帰国後、彼女は戦争中の膨大なデータを分析し、戦闘で受けた傷より、治療や衛生状態により死亡したことを統計上明らかにしました。そして統計学に疎い議員などに分かりやすいように、視覚に訴えるようなプレゼンテーションを行いました。「鶏のとさか」と呼ばれる円グラフは彼女の発案だとされています。このような功績により、1859年に女性として初めて王立統計協会の会員に選ばれています。このようにエビデンスをもとにした行動や対策は、医学において非常に大切なことです。

日本の茶道や武道などの修行過程のあり方に、「守破離」という訓があります。これは利休道歌の「規矩作法(きくさほう)、守り尽くして破るとも離るとも本(もと)を忘るな」から引用されたものです。私はこの訓を忘れずに、伝統的な医療を大事にしなが、新しい発想で社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいきたいと考えています。



学長 勝見 泰和

鍼灸学部 鍼灸学科

鍼灸学科の今年度のオープンキャンパスをご紹介します。

オープンキャンパスは、年に10回程度行われ、入学希望の高校生や保護者の方に鍼灸学科の魅力をお伝えする絶好の機会です。これまで、教員中心に行われてきましたが、昨年度から学生スタッフ主体のオープンキャンパスを実施しています。

今回は7月9日(日)に行われたオープンキャンパスのご報告です。高校生、保護者を合わせ15名の方にご参加いただきました。今回参加した学生スタッフは、3年生の鳥堂隼輝さんと、2年生の山木戸航くんです。学生スタッフは、事前に参加者に向けて話すスライド、デモ治療の内容などをオープンキャンパス担当の先生と念入りに打ち合わせをして準備します。今回は、鳥堂くんがメインのスピーカーでしたが、昨年参加しておりゲストに向けての話が上手になっていました。「緊張は未だにしますが、見やすいスライド作成やゲストに対してわかりやすい説明などを工夫して行いました。相手に伝えることの難しさを痛感し、今後の臨床実習での患者さんへの接し方や勉強を友達に教える際にも役立っています」と、オープンキャンパスを通して学んだことが学生生活や臨床実習にも活かされているようです。また、山木戸くんは、今回で2回目の参加となり、1回目よりもゲストと話す時間も増え、説明も少しずつ上手になっているようです。

オープンキャンパスでは、ホスピタリティが重要ですが、治療家にとっても必要な精神です。鍼灸学科の学生は、未来の治療家を目指し、授業以外でも治療家にとって必要な要素を身につけています！！



保健医療学部 柔道整復学科

京都丹波トライアスロン大会 in 南丹

2023年7月9日(日)、南丹市桂川(大堰川緑地公園)及び周辺地域で行われましたトライアスロン大会に本学柔道整復学科の学生および教員がスポーツケア活動に参加しました。学生は教員指導の下、意欲的に参加し、過酷なレースを戦い抜いた選手を全力でサポートしました。総勢50名以上の選手がケアブースを利用してくださり、学生は最初は緊張した様子でしたが、次第に笑顔も増え、選手と円滑にコミュニケーションをとりながらケアをしておりました。ケアに関する事前学習もしっかりと行い、現場においてもその知識を十分に活用することができ、学生同士が切磋琢磨して行っている様子をうかがうことができました。今回のイベントを通して学生にとって有益な時間となり、学内ではなかなか学べないことを経験できたのではないかと思います。今後も、学生がより良く学べるようサポートをしていきたいと思ひます。



日吉の特産物「エゴマ」の栽培体験実習

南丹市日吉町上保野田地区は、本学の近くにある40戸ほどの集落ですが、最近特に高齢化と鹿や猪などの被害により生産者が減少しています。その問題解決のひとつの方法として、非農家の方とも共同活動ができ、地域の絆を強めることを目的として2015年から耕作放棄地対策としてエゴマの栽培に取り組んでいます。

柔道整復学科では早期体験授業として4年間で学ぶこの南丹市の環境を知ることや地域との交流を目的に、エゴマ栽培のお手伝いをしています。6月25日には、上保野田区の地域住民8人と南丹広域振興局が進める「おいしい食の応援隊」のボランティア数人と本学柔道整復学科1年生18名が参加しエゴマの苗植えを行いました。農業体験を通して地域の方と触れ合うことで地域活性化の取り組みや地域医療に貢献する使命感を養うことができました。



保健医療学部 救急救命学科

即戦力となる救急救命士を目指して！

新入生84名が入学！

本年度は新入生84名を迎え、総勢309名となりました。1年生は初めて勉強する医療分野の科目に苦戦しながらも、着実に基礎を身につけています。夏季休業期間や後期の授業では、ライフセービング実習や都市型救助実習などを通して、勉強だけでなく体力面の強化も図っていきます。医療の知識だけでなく、多方面で活躍できる救急救命士を目指して様々な経験を積み成長を続けていきます。

他学年においても、2年生は気管挿管や静脈路確保などのスキルの習得、3年生は内因性疾患に対する活動や災害発生時を想定したトリアージ訓練、4年生は様々な環境や状況を想定した総合想定訓練など、日々、多種多様な実習に取り組んでいます。

学生救急救命技術選手権 第14回西日本大会にて総合優勝！！

救急救命士養成課程学生の技術と知識を競う大会である、「学生救急救命技術選手権」に当学の3年生が出場しました。様々な救急現場を模したステーションで活動を行い、総合優勝を勝ち取り全国大会に出場しました。救急救命学科設立から6年目にして初の快挙です。今年度の大会連覇に向けて練習にも更に熱が入っています。



看護学部 看護学科

助産師コース3年生：分娩介助実技試験に合格

助産師になるにはいくつかの関門をクリアしなければならない険しい道のりです。この道を選んだのは看護学部3年生の江戸唯華さん、鈴木晴佳さん、西田千乃さん、山下空美さんです。まずは学内選抜試験に合格しなければなりません。在学中の2年生の希望者の中、成績・筆記試験・面接で総合的な評価のもとで4名が3年生の前期から助産師になるためのスタートラインに立ちます。その後、助産師に求められる専門的知識を修得するため講義を受け、さらに実技の演習と試験を行います。実技試験への合格は助産学の臨床実習に出るため必要不可欠であり、1回では合格が難しい難関の試験になります。江戸さん、鈴木さん、西田さん、山下さんは毎日のように空きコマ、放課後に助産学実習室に集まり、教員も感動するぐらいに必死に練習をしました。その日々の努力は報われ、7月26日の2回目の実技試験に全員合格を果たすことができました。練習と実技試験を振り返って、江戸さんは「しんどかったです。でももっと練習が必要だと感じました」と謙虚な姿勢で述べ、西田さんは「空いている時間を有効に使うようにしていました。本番はこれからです」と練習のコツと今後の心得を話してくれました。それぞれの課題を残しつつ、11月から助産学実習がはじまります。助産師国家資格の受験資格を得るためには、10例位の分娩介助を行わなければなりません。出産は十人十色であり、産婦が満足するお産をサポートするのは助産師の仕事の難しさでありながら、やりがいでもあります。助産師コース3年生の4名が助産師になっていく道のりを暖かく見守って頂きたいと存じます。



合格発表後の西田さん、山下さん、江戸さん、鈴木さん(左からおめでとうございます！)

研究中間報告会のご紹介

大学院鍼灸学研究科では、大学院生の研究の進行状況を確認するとともに、各専門領域の教員からアドバイスをもらう目的で、「研究中間報告会」を定期的実施しています。

プレゼンは10分間、質疑時間が10分間と、実際の学会発表を想定した練習も兼ねています。

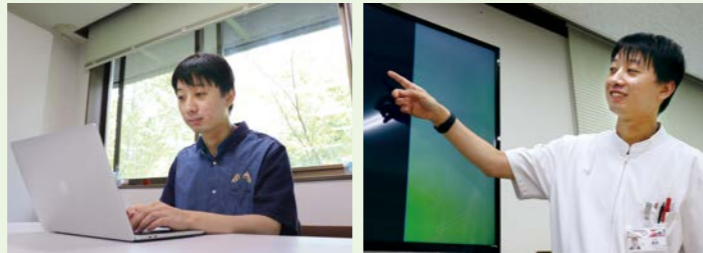
今回は、大学院2年生の龍見さんに、研究中間報告会の感想を聞いてみました。

私は、経穴の「硬さ」をテーマに研究をしています。同じようなテーマの研究は少ないため、意見交換をする機会があまりありませんでした。なので、他のテーマで研究を行っている方々が集まる中間報告会での発表は、貴重な機会であると感じていました。一方で、初めて発表する緊張とこちらの意図が伝わるか不安があったため、分かりやすい発表ができるよう、期間に余裕を持って中間報告会に向けて準備を始めました。まず先輩方の発表を参考に発表資料を作り、指導教授のゼミの勉強会で発表しました。実際に発表してみると、問題点が続々と出てきて、分かりやすく伝えることの難しさを感じました。その後も、ゼミで発表と修正を繰り返し、中間報告会に向けた準備を進めていきました。この間、伝える能力が身に付いていることを実感でき、やりがいを感じていました。

迎えた本番の中間報告会は、十分な練習を重ねたため、程よい緊張感で、分かりやすい発表が行えたと思っています。他の領域で研究を行っている方々からも、新しい視点で意見をいただくことができ、非常に有意義な時間でした。今回の経験を、今後の研究や学会発表に活かしていこうと思います。

龍見さんの感想から、非常に入念に準備している状況が伝わってきました。大学院生にとっては非常に緊張するものですが、よりよい研究のために役立っているようで、安心しました。

龍見さんを含め、大学院生のみなさんの研究に期待しております。



大学院 保健医療学研究科 保健学専攻

保健医療学研究科保健学専攻では、2年生に2名、1年生に2名の大学院生が在籍しています。そのうち、3名が本学の卒業生です。附属病院で看護師として勤務しながら、鍼灸師として活動しながら、仕事と両立しながら修士論文の準備に携わっています。

卒業生の皆様も是非大学院で新しいステップを踏んでみませんか。現在、看護師、助産師、鍼灸師、救急救命士の皆様が勉学に励んでいます。

次年度には保健学専攻博士後期課程を設置する予定です。

保健医療学研究科長・保健学専攻長 桂 敏樹



女子サッカー部 7戦全勝で悲願のリーグ戦初優勝

2022年シーズンは春・秋季リーグ(1部)共に2位だった本学女子サッカー部。新チームとなって臨んだ2023年春季リーグは、初戦の姫路獨協大学戦から序盤で得点を奪い主導権を握り最後まで走り抜く自分たちのサッカーを展開。「チーム一丸となって戦い抜くことができました」とチームをけん引した河村



祐実主将(鍼灸学科4年)が話す通り、白星を重ね、初優勝がかかった大阪体育大学との最終戦も前半から相手を圧倒。7対2で勝利し、悲願の初優勝を全勝で飾ることができました。9月には全国大会のかかる秋季リーグがスタートします。引き続き応援よろしくをお願いします。



女子柔道部 関西学生女子柔道優勝大会(5人制団体)で2年ぶり2度目の優勝 個人でも5人が全日本ジュニア出場権獲得

5月28日に兵庫県尼崎市のベイコム総合体育館で行われた第31回関西学生女子柔道優勝大会(5人制団体)に本学女子柔道部が出場。昨年1対2で敗れているライバルの龍谷大学を1対1の代表戦の末に退け、2年ぶり2度目の優勝を果たしました。

その勢いをかり臨んだ2023年度全日本学生柔道優勝大会(女子32回)は、善戦するも3回戦で東京学芸大学に0対1で惜敗しベスト8進出を逃しました。

個人戦では、第17回近畿ジュニア柔道体重別選手権大会で63kg級、78kg級の高木水月選手(救急救命学科2年)、井上果音選手(柔道整復学科2年)が優勝したほか、合わせて5人が

9月に開催される全日本ジュニア柔道体重別選手権大会の出場権を獲得しました。



陸上競技部 U20日本選手権の女子やり投で山崎選手が5位入賞 関西インカレ男子2部フィールド優勝

5月24日から27日までの4日間、100回の記念大会となった関西学生陸上競技対校選手権大会(関西インカレ)がヤンマースタジアム長居などで行われ、男子2部で77点を獲得し総合4位、砲丸投、ハンマー投で表彰台を独占するなど投てき種目を軸に躍動。悲願の1部昇格は逃しましたが、フィールド優勝(72点)に輝くなど健闘が光りました。

個人ではルーキーの山崎絢音選手(看護学科1年)がU20日本選手権で5位と力投。続く西日本インカレでも5位に食い込み日本インカレの参加標準を突破。他にも男子やり投で藤原翔真選手(柔道整復学科3年)が3位入賞を果たすなど4人が入賞と活躍しました。



未来への一歩



会長 榎田 幸雄

このたび、教育振興会会長就任にあたりご挨拶申し上げます。
 平素から、教育振興会の事業にご協力ご支援を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。一生懸命に尽力いたして参りますので、何卒宜しくお願い致します。
 さて、令和6（2024）年7月に予定されている新しい一万円札の顔となる、渋沢栄一という人物をご存じでしょうか。渋沢栄一は明治維新後、民間経済人として活躍し、「日本資本主義の父」と称されています。「進取の気性」という言葉を重要な要素であると考え、現代においても受け継がれている言葉の一つです。この考え方は、変化する社会においても、後退することなく、前進し続ける姿勢を持つことへの重要性を教えてくれています。新しい状況に対して柔軟な発想と果敢な行動力を持ち、未来への道を切り拓いていくことだと考えています。

大学生活では、新しい出会いや経験を通じて成長し、自己を発見していくと思います。困難な時もあるかもしれませんが、その都度立ち向かい、乗り越えていける力があると信じています。明治国際医療大学の学舎で、心豊かな人間性を育み、友情を育みながら、知識と経験を積み重ねてください。未来への一歩一歩が、きっと輝かしい道を切り拓くことになると思います。未来へのステップを踏み出す皆さんを心から応援しています。

教育振興会としましては、より良い学生生活が過ごせるように、環境整備を始め、部活動関連のほか、教育研究活動等へも積極的に支援をさせて頂けたらと前向きに考えております。大学と教育振興会とが互いに連携し合う中で、学生生活の向上のために取り組み、前進していけるようにと心より願っております。

会員の皆様には、教育振興会の事業へのご理解、ご支援に対し、心より感謝致しますとともに、ご指導とご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しく申し上げます。

令和4年度 明治国際医療大学 教育振興会【事業・収支報告】

令和4年4月1日～令和5年3月31日

収入の部		支出の部	
会費	13,110,000	教育・研究活動に関する支援	1,112,095
新生	12,650,000	クラス懇談会等支援金	415,785
新生（編入）	80,000	海外研修支援金	0
大学院（修士）	380,000	資格取得支援金	696,310
大学院（博士）	0	大学院生学会発表支援金	0
受取利息	279	課外活動に関する支援	1,019,320
		課外活動支援金	311,920
		たには祭協賛金	500,000
		たには祭金券補助	207,400
		ボランティア活動支援金	0
		福利厚生費に関する支援	2,713,440
		100円朝食支援金	1,467,190
		アスリート食支援金	1,246,250
		慶弔・見舞金等	0
		アルバム購入費用補助	0
		学修環境整備に関する支援	8,062,168
		自習室複合機リース料・印刷代他	595,470
		学修支援センター自習室PC	805,970
		自習室整備費等	3,660,728
		学修環境整備積立金	3,000,000
		その他の経費	130,029
		教育振興会長表彰	43,600
		会議費・役員交通費	12,814
		印刷・通信費	73,615
		事務経費	0
当期収入小計	13,110,279	当期支出小計	13,037,052
前期繰越金	14,493,615	次期繰越金	14,566,842
収入の部合計	27,603,894	支出の部合計	27,603,894

【期末預金の内訳】

次期繰越金	14,566,842 円
学修環境整備費積立金	18,000,000 円
計	32,566,842 円

明治国際医療大学教育振興会
 会長 伊部 正記 殿

監査所見

令和4年度収支計算について、必要な監査手続きを実施した。監査の結果、その内容は適正に表示されていることを認めます。

令和5年4月10日

監事 広田 延孝
 監事 藤井 義巳

令和5年度 明治国際医療大学 教育振興会【役員紹介】

任期：令和5年4月1日～令和6年3月31日

役職	氏名
会長	正会員（1名） 榎田 幸雄
副会長（2名）	正会員（1名） 木浦 恭子
	教職員（1名） 小川 豊清
幹事（若干名）	正会員（若干名） 中沢 真佐美、南平 英樹、久世 則子、田村 裕、金羽 美恵
	教職員（若干名） 河井 正隆、檀上 博、伊藤 肇敏
会計	正会員（1名） 廣瀬 仙義
	教職員（1名） 松岡 佳代
監事	正会員（1名） 広田 延孝
	教職員（1名） 藤井 義巳

朱字 新規役員

令和5年度 明治国際医療大学 教育振興会【事業計画・収支予算】

1. 事業計画

- (1) 教育・研究活動に関する支援
 - クラス懇談会等の開催や、海外研修、就職活動および資格取得等を支援
 - ①クラス懇談会等の支援（飲食費の一部補助）1,500円×936名
 - ②海外研修の支援（旅費の一部補助）5万円×15名
 - ③資格取得の支援（技能検定等の一部補助）1万円（上限）×50名
 - ④国家試験模試の一部補助 5,000円×250名
 - ⑤大学院生学会発表に対する支援 1万円（上限）×50名
- (2) 課外活動に関する支援
 - クラブ活動、ボランティア活動および大学祭等の大学行事への支援
 - ①課外活動の支援（部活支援・応援バスの運行・全国大会出場激励金等）200万円
 - ②たには祭の協賛金 50万円
 - ③たには祭の金券補助 1,000円×300名
 - ④ボランティア活動の支援（交通費・ボランティア保険の一部補助）10万円
- (3) 福利厚生に関する支援
 - 健康保持・増進のため100円朝食の提供など、福利厚生を支援
 - ①食育の支援（朝食料金の一部補助）210円×月1,000食×10ヵ月
 - ②アスリート食の支援（朝食料金の一部補助）50円×25日×月100食×12ヵ月
 - ③卒業アルバム費用の補助 3,000円×200名
- (4) 学修環境の整備に関する支援
 - 学修環境充実のための備品、用品および出版物等の整備
 - ①学修支援センター複合機リース料、印刷代（コピーカード配付500枚/人）120万
 - ②図書の新購
 - ③学修環境充実のための整備
- (5) その他
 - ①教育振興会会長表彰 10,000円×4学科
 - ②役員会への出席に伴う交通費の負担
 - ③役員会・総会の開催（案内状の印刷・発送・会議費等）
 - ④事業計画・収支予算および事業報告・収支決算の公表（印刷・発送）

2. 収支予算（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

収入の部		支出の部	
会費	12,670,000	教育・研究活動に関する支援	4,404,000
新生	12,300,000	クラス懇談会等支援金	1,404,000
新生（編入）	100,000	海外研修支援金	750,000
大学院（修士）	240,000	資格取得支援金	500,000
大学院（博士）	30,000	国家試験模試支援金	1,250,000
受取利息	250	大学院生学会発表支援金	500,000
		課外活動に関する支援	2,900,000
		課外活動支援金	2,000,000
		たには祭協賛金	500,000
		たには祭金券補助	300,000
		ボランティア活動支援金	100,000
		福利厚生に関する支援	4,300,000
		100円朝食支援金	2,100,000
		アスリート食支援金	1,500,000
		慶弔・見舞金等	100,000
		アルバム購入費用補助	600,000
		学修環境整備に関する支援	9,000,000
		自習室複合機リース・印刷代他	1,200,000
		図書の新購	150,000
		学修環境整備費	4,650,000
		学修環境整備積立金	3,000,000
		その他の経費	360,000
		教育振興会長表彰	40,000
		会議費・役員交通費	140,000
		印刷・通信費	150,000
		事務経費	30,000
当期収入小計	12,670,250	当期支出小計	20,964,000
前期繰越金	14,493,615	予備費	6,199,865
収入の部合計	27,163,865	支出の部合計	27,163,865